

歩いて楽しいまちづくり宣言

米子市では、まちなかを「車中心」から「公共交通と歩行者中心」の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へ生まれ変わらせることを目指しています。

これからの未来のため、車への過度な依存から脱却し、車がなくてもまちなかや郊外で生活できる誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていきます。

ここ米子に集う人々が「歩いて楽しい」を実感できる街の実現のため、市民、企業、行政が連携した「歩いて楽しいまちづくり」に取り組むことを宣言します。

令和5年7月22日 米子市長

伊木隆司

趣旨説明

日本の多くの都市においては、人口減少、少子高齢化の進展などによる地域の活力の低下が課題となり、街の魅力を向上させ、にぎわい創出を図ることが必要となっています。

これまでのような車中心のまちづくりでは、移動が点と点となるため、まちなかを歩く人が減り、街は寂れ、にぎわいが創れません。店舗には、広い駐車場が必要となり、郊外への出店が進む一方で、まちなかには空き店舗、空き地が増えていき街の魅力が低下します。また、二次交通が弱いため、観光客が地域を周遊することが難しく、観光地としても可能性を狭めてしまいます。

そこで、米子市では、まちなかを「車中心」から「公共交通と歩行者中心」の空間へと転換することにより、街のにぎわいが生まれ、車を持たない若者や高齢者でも暮らしやすい街にしていきたいと考えています。また、歩くことは、健康寿命の延伸にも繋がるものと考えています。

米子市では、人口減少、少子高齢化などの社会情勢を見据え、がいなロード整備を契機として、歩いて楽しいまちづくりに取り組んでいるところです。米子駅周辺地区・角盤町周辺地区では、まちなかウォークブル推進事業により、安全で快適な歩行者優先の空間整備、公園の整備など居心地が良く歩いて楽しい環境づくりに取り組みます。米子港周辺地区では、中海・錦海かわまちづくり計画に基づく広場整備、皆生温泉地区では、まちづくりビジョンに基づく灯りの整備、その他、米子城跡整備事業、東山公園の新体育館整備などに取り組みます。にぎわいの創出には民間の活力が必要不可欠であり、これらの各地区の社会基盤を整備することでまちなかへの民間投資を促します。その他、まちなかでのイベント開催、公共交通の利便性向上、郊外の鉄道駅周辺の土地利用規制の緩和、各種ウォーキングイベントの定期開催などを推進します。

以上を進めるに当たっては、市民、企業、行政が連携してにぎわいづくりに取り組み、共に街の魅力向上を図ります。これらの取組により、まちなかと郊外の拠点となる場所を有機的に結び付け、公共交通を活かした歩いて暮らせるまちづくりを進めます。